

これからも桐生で暮らしたい。

令和3年4月から、黒保根地区に加えて、桐生地区が新たに過疎地域に指定されました。

しかし、過疎地域であることは、悪いことばかりではありません。

市は今後も、市民一人ひとりが輝ける「快疎かいそで魅力あるまち」を目指し、さまざまな取り組みを行っていきます。

皆さんも、桐生市がどんなまちになったら良いか、一緒に考えてみませんか。



目指すのは「快疎」

「快疎」とは、開放的で人口が密でない（疎である）空間に、他にはない価値が加わり、空間的にも精神的にもより安定した快適な状況を指す造語です。

令和2年12月に策定された、新・群馬県総合計画「ビジョン」では、県全体でその実現を目指すこととしており、市でも「快疎」をキーワードとしたまちづくりを目指していきます。

過疎計画を策定

過疎地域の持続的発展のために、必要な施策を総合的に計画的に推進するため、桐生市過疎地域持続的発展計画（過疎計画）を策定しました。計画書は、企画課（市役所3階）、新里・黒保根支所、市ホームページにあります。計画期間Ⅱ令和3年度から7年度までの5年間
対象地区Ⅱ桐生地区（平成の合併前の旧桐生市）および黒保根地区（平成の合併前の旧黒保根村）

計画策定のメリット

過疎計画に基づいて事業を

実施した場合、国からさまざまな支援が受けられます。

①教育、児童福祉、消防に関する施設を整備する場合、国の補助金などが増額される

②事業の財源について、財政的に有利な過疎対策事業債を活用できる

③特定業種の事業者の設備投資について、固定資産税の課税免除を国の支援のもとで実施できる

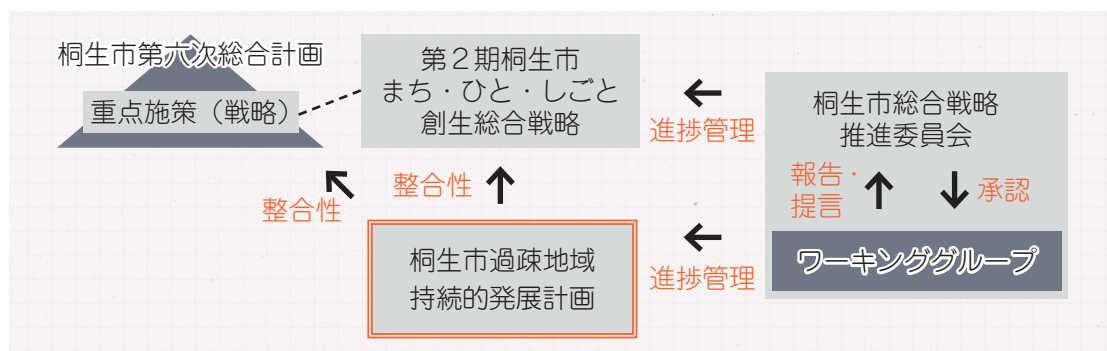
計画の位置付け

令和2年度から取り組んでいる桐生市第六次総合計画（総合計画）が人口減少対策を主眼に置いていることから、本過疎計画も、総合計画との関連性を強めた内容となっています。また、総合計画と一体的に策定した第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合戦略）は、人口減少克服や桐生ならではの地方創生に取り組む内容であるため、総合戦略との整合性にも十分に留意しました。

共創のまちづくり

「桐生市総合戦略推進委員会」に、公募した市民を含むワーキンググループを設置し

（左図参照）、市民の皆さんと一緒に人口減少や過疎対策を考えていきます。問い合わせⅡ企画課企画戦略担当（☎内線524）



100年先も安心して住み続けられるまちづくりを

過疎地域においては、豊かな自然環境や安らぎのあるライフスタイルなど、都市にはない価値を守り育てていくことが求められています。その価値をさらに発展させていくのは“人”です。熱意ある人材が地域へ参入し、活躍できる環境を整えていくことが重要であると考えています。

また、過疎地域の持続的発展のためには、市民生活のためのインフラ整備に加え、就労や子育て環境への桐生独自のきめ細やかな支援を行い、活力ある地域社会を確立していく必要があります。

これらを実現していく手段として、産・官・学・民・金など多くの団体の有識者からなる、「桐生市総合戦略推進委員会」において、人口減少や過疎対策に特化した「ワーキンググループ」を新たに組織します。

これまでの人口減少対策を再度検証するとともに新たな取り組みを打ち出し、快適で他にはない価値を有するまちを作り上げてまいります。

先日、大手不動産企業が実施した「街の幸福度&住み続けたい街ランキング2021北関東版」において、桐生市が住み続けたい街の第1位となりました。

この調査は、北関東エリアに居住する20歳以上の男女合計16,115人を対象に実施され、「ずっと住んでいたい」という強さを5段階で回答し、その平均値によりランキング形式で発表されたものです。

また、同時に発表された「誇りがある街」「愛着がある街」のランキングでも、北関東で1位という高い評価をいただきました。

この結果を励みにするとともに、市民が自分のまちに誇りを持ち、住み続けたいという気持ちを大切に、100年先も安心して住み続けられるまちづくりに努めてまいります。

桐生市長 荒木 恵司





金子晃子さん

みどり市出身。桐生市立商業高校、文化服装学院を経て、東京都でアパレル業に従事。令和2年3月より桐生市地域おこし協力隊として活動中。

興味を持って来てくださる人が増えるように、桐生のファンを増やしたいですね。

東京で30年近くアパレルの仕事をしていて、もうそろそろやりきったな、次のステップに進みたいな、という思いがありました。もともと趣味でコーヒーの焙煎をしていたので、次はコーヒーに関わる仕事をやりたくて。ちょうど桐生市が地域おこし協力隊を募集していると知り、起業も視野に入れた活動をたく、応募しました。

桐生市を選んだ理由は？

高校時代に桐生に通っていたのですが、当時の桐生はおしゃれなまちで、ずっと憧れていたんですよね。だから、起業するなら桐生市がいいなと思ったのかもしれない。とはいえ、しばらくぶりに帰ってきたので、まちがどう変わったのか、どういう人たちが今活動しているのか知りたくて、休日にまちを歩いたり、気になる人に会いに行ったりしました。そうして、やっぱり魅力的なまちだなって

再発見したんです。

桐生の魅力とは？

私が若い時の桐生は、華やかな、キラキラしているイメージ。けれども、今改めて魅力を感じるの、古い建物や古いもの。私、タイムレスという言葉が好きで。時を超えて、それでも魅力的に映るもの、ってそんなに多くないと思うんですけど、桐生はタイムレスだと感じました。こういうまち並みを皆が守ろうとしているし、移住してきて桐生を盛り上げようと思っている人たちがたくさんいて、まだまだ桐生は良くなると確信しました。

今、起業に向けた準備も進めているのですが、自分がやりたいことをいろんな人に話していたら、どんどん縁が広がっていった。桐生で出会った人たちが、人の輪を広げてくれて、協力もしてくださって、ありがたいです。ますます桐生が好きになりました。

今後の目標は？

地域おこし協力隊としての任期があと1年半残っているので、まずはしっかりとやり遂げたいと思っています。一緒に活動している2人と、もっともって桐生の魅力を発信していきたいですね。

個人としては、焙煎所兼コーヒー教室となるお店をオープンさせて、少しずつでもいろんなお客様に来ていただけるように、今後発信していく予定です。そして、ゆくゆくは桐生の地域に貢献できるように、頑張っていきたいです。



リニューアルしたシルクル桐生で

SCISSORHANDS



大澤典史さん

桐生市出身。桐生高校卒業。美容師としてキャリアをスタートし、2010年に独立。2020年にUターンし、「VALTAN」をオープンさせる。

まちが活性化するために、 自分にできることは何でもしたいと思っています。

30歳までに独立するという目標を決めていたので、ちょうど30歳のときに独立して、下北沢でお店を始めました。その後、結婚して子どもができたのですが、娘が2歳のときに妻が病気で亡くなってしまつて。お店は順調でしたが、子育て環境を考えて、桐生に戻ることを決断しました。

起業まではどんな準備を？

東京で10年やっていたからといって、桐生でも同じやり方が通用するとは思いませんでした。だから、戻ると決めたときに、県内の美容室を一からリサーチして、どんな美容室が必要なのかを考え、メニューなどもしっかり準備して起業しました。おかげさまでたくさんの素敵なお客様に出会い、今は約1か月先まで予約が埋まっている状況です。

子育て環境はいかがですか？

娘は、この桐生ってまちが

好きみたいです。「東京に帰りたい？」って聞くと、「桐生がいい」って言います。

令和元年12月に引越してきたんですけど、ひとまず近くの西幼稚園に見学に行ったら、先生方がとても良くしてくれて。預かり保育の制度で夕方5時まで預かってもらえるし、僕の両親も手伝ってくれるので、ひとり親でも幼稚園に通わせられています。

そして、娘の今の夢はまさかの「西幼稚園の先生」なんです。そのぐらい、桐生のまちや人が好きみたいです。

桐生市に望むことは？

地域活性化のために、市には、ターゲットをしっかりと決めて、的確な情報発信をしていってほしいと思っています。そして、今現役の僕たちもしっかり考えて行動し、桐生を変えていかなければならないと思います。そのためには、市民それぞれが「いい」と思うことを、もっと発信するこ

とが必要。例えば、子育ての環境がベストなこと、素敵なお店があること。事業者としては、より良いものを提供しながら、同業者や他業者と切磋琢磨していきたいですね。

今後の目標は？

これまでさまざまな人にお世話になり、友人たちにもだいぶ助けられました。なのでこれからは「恩返し」の気持ちで、自分にできることは何でもやっていきたいと思っています。いつまでも感謝の気持ちを忘れずにいたいですね。



娘さんの通う西幼稚園へお迎えに